

沖縄キリスト教短期大学  
2018年度 後期  
授業評価アンケート結果報告書

2019年 4月 22日

IRセンター

## はじめに

2018年度後期の授業評価アンケートを翌年1月（当該学期末に近い時期）に実施し、63科目、135クラスについて分析を行った。分析に供された評価表は、3,260件であった。評価は5段階法を採用しており、1点から徐々に上がり、5点を最高の評価としている。ただし、質問6、8においては、各数値に時間、割合をそれぞれ配置している。

学生による数値的回答による評価と自由記述による評価の2点についてみていく。

### 【文章内の表・グラフについて】

文章内に記載の表やグラフは、次のようになります。

- ・短大の全ての授業を総合した評価を「全学科」、各科・系の授業を評価したものをそれぞれ「総合教育系」「英語科」「保育科」として、回答（選択肢）の割合（%）を表で示した。
- ・先に述べた回答（選択肢）割合を、積み上げ100%横棒グラフで示し、「選択肢4及び5」と回答した割合について前年度同期との差分を横棒グラフで示す。

## 1. 数値的回答による評価

学科名：全体	63 科目 135 クラス	回答数：3,260
--------	---------------	-----------

### ▼ 全学科

記述統計量<sup>a</sup>

	度数	各評価の割合					平均値	標準偏差	
		5	4	3	2	1			
I 学習態度の自己評価	1. 授業の概要・目的、成績評価方法等の正しい理解	3258	73.7%	18.9%	6.9%	0.4%	0.1%	4.66	.629
	2. 授業を乱す行為をしない	3260	71.2%	20.1%	7.6%	0.8%	0.4%	4.61	.695
	3. 発展的な学習や新しい知識への興味	3259	68.3%	21.8%	8.8%	0.7%	0.3%	4.57	.712
	4. 積極的な参加	3260	66.3%	22.2%	10.4%	1.1%	0.1%	4.54	.728
	5. 地域及び国際社会の事情に、より関心を持つ	3248	60.6%	23.9%	12.6%	1.6%	1.3%	4.41	.866
	6. 予習及び復習の合計時間	3254	12.9%	7.1%	12.2%	31.3%	36.6%	2.28	1.360
	7. 遅刻はない	3237	70.4%	16.0%	8.5%	3.4%	1.7%	4.50	.909
	8. 授業における出席状況	3253	41.1%	33.3%	17.1%	6.8%	1.7%	4.05	1.003
II 学習環境の評価	9. 授業中の質問する機会や工夫	3257	69.5%	19.9%	8.8%	1.4%	0.4%	4.57	.745
	10. 適切な授業の開始・終了時間	3256	80.3%	13.3%	5.5%	0.8%	0.2%	4.73	.610
	11. メリハリのある授業の進め方	3258	77.9%	14.1%	6.7%	1.0%	0.2%	4.69	.658
	12. 理解や興味を引き出す工夫	3258	73.0%	17.1%	8.0%	1.6%	0.3%	4.61	.730
	13. 教員としての相応しい発言や態度	3258	79.6%	13.0%	6.1%	1.0%	0.2%	4.71	.646
	14. 学習環境、受講生のマナーの維持	3256	75.6%	15.8%	7.2%	1.1%	0.3%	4.65	.688
	15. 教科書や黒板、パソコン等の有効利用	3258	76.8%	14.8%	6.9%	1.2%	0.4%	4.66	.692
	16. 適切な授業の進度	3258	77.6%	14.6%	6.3%	1.2%	0.3%	4.68	.673
	17. 学んだという達成感	3258	74.0%	16.7%	7.2%	1.6%	0.6%	4.62	.735

質問 6 の回答欄 (⑤3 時間以上、④3 時間程度、③2 時間程度、②1 時間程度、①0 時間)

質問 8 の回答欄 (⑤皆出席、④90%程度、③80%程度、②70%程度、①60%以下)

質問 6「予習復習の合計時間」を除いた 16 個の質問において平均値が 4.0 以上であった。この傾向は、2017 年度からであり総合的な評価は高いものの、質問 6 にあたる自学自習への取組は例年低く改善されていない。

授業外での学習時間を表す質問 6 の平均値が 2.28 と低い。0 時間とする割合は 36.6%であったのに対し、2 時間以上（選択肢 3、4、5 の合計）が 32.1%であった。3 時間以上は 12.9%と前期よりは増えているが、予習及び復習時間の少なさは、まだまだ改善すべき課題として挙げられる。近年、シラバスの内容の充実やルーブリックの導入により、学生にとっては、授業の進め方がだいぶ明確化して取り組みやすくなっている。学生のみなさんはぜひ、ActiveAcademy で受講する授業のシラバスを確認することを常日頃から行ってほしい。



学科名：総合教育系	14科目 24クラス	回答数：624
-----------	------------	---------

▼ 総合教育系

記述統計量<sup>a</sup>

	度数	各評価の割合					平均値	標準偏差	
		5	4	3	2	1			
I 学習態度の自己評価	1. 授業の概要・目的、成績評価方法等の正しい理解	624	76.1%	17.8%	5.3%	0.8%	0.0%	4.69	.606
	2. 授業を乱す行為をしない	624	76.4%	16.3%	5.9%	0.8%	0.5%	4.67	.667
	3. 発展的な学習や新しい知識への興味	624	68.6%	20.5%	9.1%	1.3%	0.5%	4.55	.752
	4. 積極的な参加	624	66.8%	23.2%	9.0%	1.0%	0.0%	4.56	.696
	5. 地域及び国際社会の事情に、より関心を持つ	620	60.6%	23.2%	11.3%	2.1%	2.7%	4.37	.957
	6. 予習及び復習の合計時間	624	13.9%	5.9%	10.4%	30.1%	39.6%	2.25	1.391
	7. 遅刻はない	616	75.5%	15.7%	5.2%	2.1%	1.5%	4.62	.802
	8. 授業における出席状況	622	38.1%	35.7%	18.3%	5.8%	2.1%	4.02	.993
II 学習環境の評価	9. 授業中の質問する機会や工夫	623	65.8%	22.3%	9.3%	2.2%	0.3%	4.51	.781
	10. 適切な授業の開始・終了時間	623	82.5%	12.8%	3.5%	1.0%	0.2%	4.77	.572
	11. メリハリのある授業の進め方	623	81.4%	12.8%	4.2%	1.6%	0.0%	4.74	.611
	12. 理解や興味を引き出す工夫	623	75.0%	16.1%	6.9%	1.9%	0.2%	4.64	.711
	13. 教員としての相応しい発言や態度	623	81.1%	12.8%	4.2%	1.8%	0.2%	4.73	.638
	14. 学習環境、受講生のマナーの維持	622	77.3%	15.3%	5.6%	1.8%	0.0%	4.68	.661
	15. 教科書や黒板、パソコン等の有効利用	623	78.8%	13.5%	5.6%	1.6%	0.5%	4.69	.695
	16. 適切な授業の進度	623	81.4%	12.7%	4.0%	1.8%	0.2%	4.73	.634
	17. 学んだという達成感	623	74.2%	16.9%	5.8%	2.9%	0.3%	4.62	.752

質問6の回答欄（⑤3時間以上、④3時間程度、③2時間程度、②1時間程度、①0時間）

質問8の回答欄（⑤皆出席、④90%程度、③80%程度、②70%程度、①60%以下）

総合教育系の授業は、質問6以外の項目の平均値が4.0～4.8であり、学生からの評価は高いといえる。対して質問6は平均値2.25と低く、0時間と答えた割合は39.6%（247）であった。2時間以上と答えた割合は46.5%（290）であった。同じ授業への積極性を測る質問である質問7「遅刻はない」の平均値4.62、質問2「授業を乱す行為をしない」は4.67、質問4「積極的な参加」は4.56と比較的割合は高い。質問8「授業における出席状況」においても平均値4.02であった。このことより、授業への意欲・関心が高いことがわかる。

II 学習環境の評価項目のうち、質問10「開始・終了時間」、質問11「授業のメリハリ」、質問13「教員のふさわしい発言・態度」、質問16「授業の進度」において評価が高かった。質問9「質問の機会や工夫」、質問12「理解や興味を引き出す工夫」、質問17「学んだという達成感」の3項目は比較的低い結果であった。

▼総合教育系（グラフ）

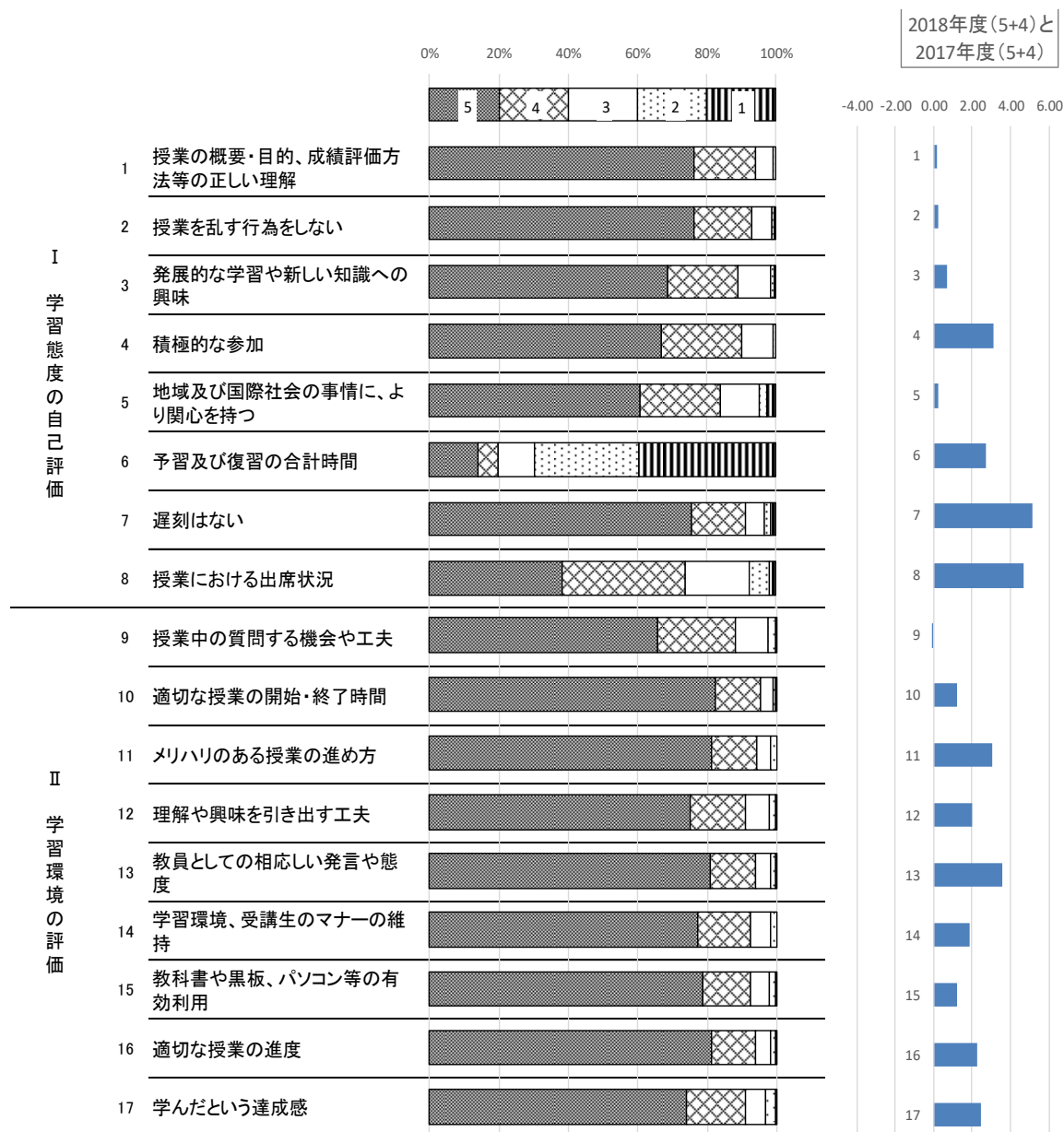


図3 各評価の割合（総合教育系）

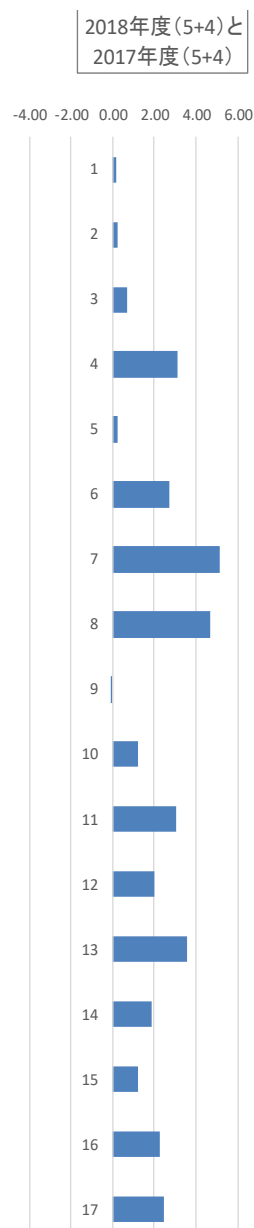


図4 選択肢5及び4の割合の前年度同期との差分（総合教育系）

図3より、質問6以外の16項目において「選択肢5、4」が70%以上であり、評価が高いといえる。質問6の「選択肢5、4」は20%と前期より上がっている。予習及び復習時間の不足は例年の課題であるため、継続的な改善につながる事がのぞまれる。

図4から、全ての項目でプラスにグラフが伸びているのがわかる。+2.0%を超える項目が8項目あり、特に質問7、8の2項目については+4.0%以上の伸びが確認でき、明らかな改善傾向がみられる。この部分は学生の「態度」を表す指標として授業への積極性を測ることができる。前年度同期と比して、大きく改善していることは、学生の積極性が増しているといえる。

学科名：英語科	21 科目 23 クラス	回答数：469
---------	--------------	---------

▼ 英語科

記述統計量<sup>a</sup>

	度数	各評価の割合					平均値	標準偏差	
		5	4	3	2	1			
I 学習態度の自己評価	1. 授業の概要・目的、成績評価方法等の正しい理解	469	68.4%	22.6%	8.7%	0.2%	0.0%	4.59	.656
	2. 授業を乱す行為をしない	469	56.7%	29.4%	12.8%	0.6%	0.4%	4.41	.768
	3. 発展的な学習や新しい知識への興味	469	55.2%	29.9%	13.4%	1.3%	0.2%	4.39	.781
	4. 積極的な参加	469	52.2%	30.7%	15.6%	1.3%	0.2%	4.33	.799
	5. 地域及び国際社会の事情に、より関心を持つ	467	43.9%	25.7%	25.5%	3.6%	1.3%	4.07	.976
	6. 予習及び復習の合計時間	468	13.5%	9.2%	16.5%	40.8%	20.1%	2.55	1.282
	7. 遅刻はない	465	55.1%	18.7%	12.9%	8.8%	4.5%	4.11	1.196
	8. 授業における出席状況	469	23.5%	35.0%	22.8%	15.8%	3.0%	3.60	1.098
II 学習環境の評価	9. 授業中の質問する機会や工夫	468	61.5%	25.4%	11.3%	0.6%	1.1%	4.46	.802
	10. 適切な授業の開始・終了時間	469	78.9%	15.4%	5.3%	0.0%	0.4%	4.72	.599
	11. メリハリのある授業の進め方	469	72.9%	19.6%	6.8%	0.2%	0.4%	4.64	.656
	12. 理解や興味を引き出す工夫	469	62.7%	26.9%	9.0%	0.9%	0.6%	4.50	.747
	13. 教員としての相応しい発言や態度	469	79.3%	15.6%	4.9%	0.2%	0.0%	4.74	.551
	14. 学習環境、受講生のマナーの維持	469	67.4%	21.3%	8.5%	1.5%	1.3%	4.52	.815
	15. 教科書や黒板、パソコン等の有効利用	469	69.9%	21.3%	7.5%	0.6%	0.6%	4.59	.712
	16. 適切な授業の進度	469	72.3%	19.4%	7.0%	0.4%	0.9%	4.62	.711
	17. 学んだという達成感	469	64.0%	23.5%	10.0%	1.3%	1.3%	4.48	.826

質問 6 の回答欄 (⑤3 時間以上、④3 時間程度、③2 時間程度、②1 時間程度、①0 時間)

質問 8 の回答欄 (⑤皆出席、④90%程度、③80%程度、②70%程度、①60%以下)

英語科の授業は、質問 6、8 以外の項目の平均値が 4.0 以上であり、総じて評価は高いといえる。質問 6 は平均値 2.55 と低いが「0 時間」の割合は前年度同期に比べて 9%減少している。「2 時間程度」、「3 時間程度」、「3 時間以上」と回答した割合はそれぞれ増加している。このことから予習・復習の時間の不足が改善しているといえる。質問 8 においても平均値は比較的低いですが、前年度同期と比べて 60%以下と回答している割合は 3%減少し、逆に皆出席と回答した割合は 5.5%増加しており、こちらも改善している。

「II 学習環境の評価」では各項目において平均がいずれも 4.4 以上と環境面での評価は高い。

▼英語科（グラフ）

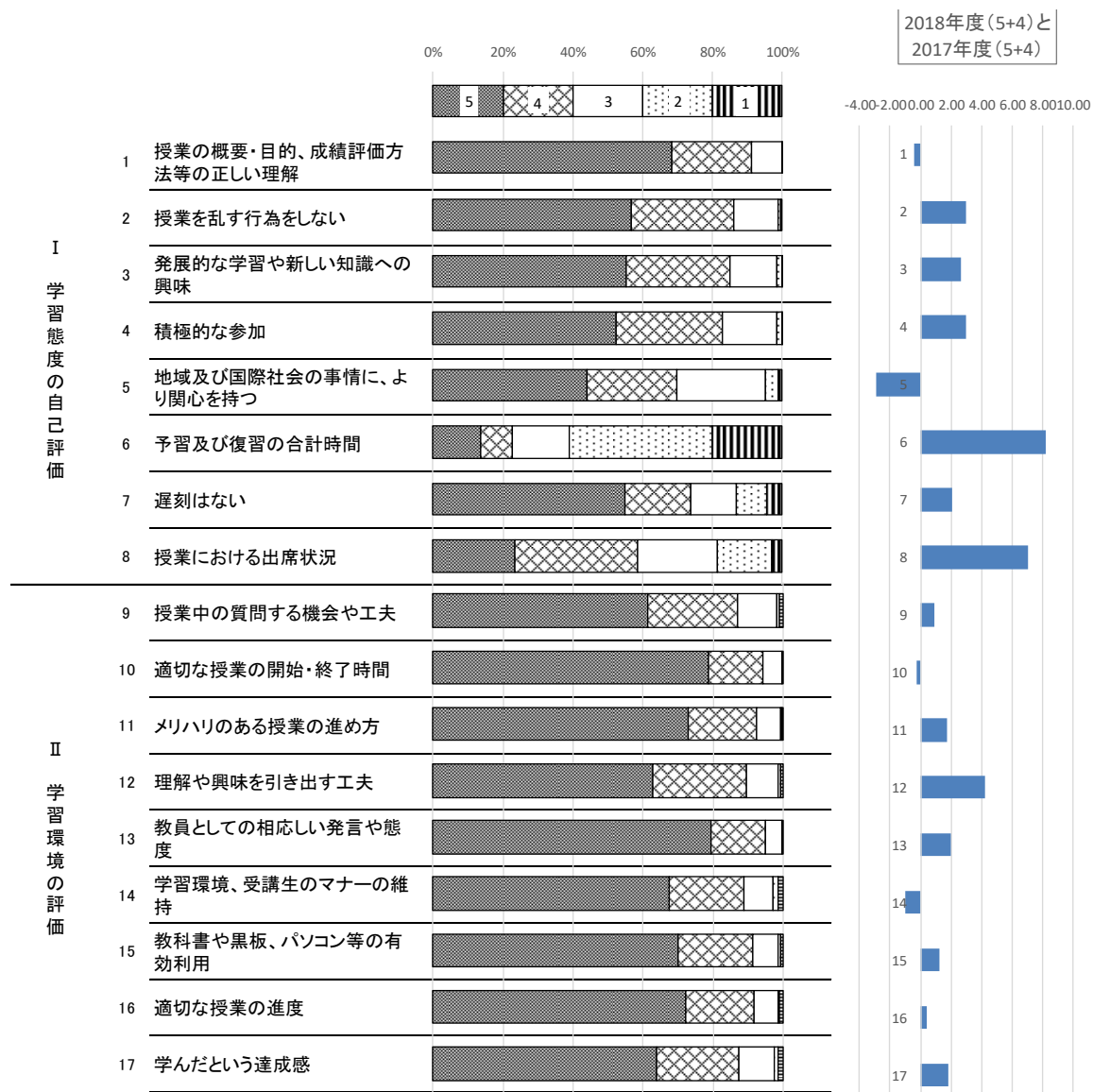


図5 各評価の割合（英語科）

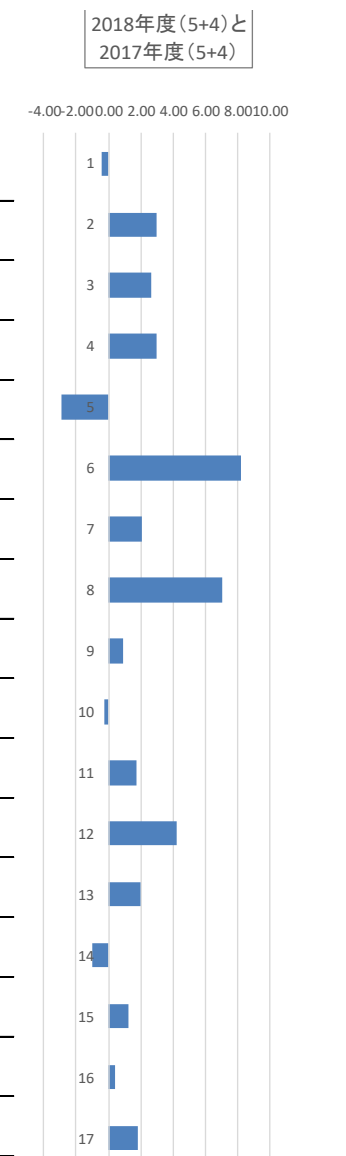


図6 選択肢5及び4の割合の前年度同期との差分（英語科）

図5から、質問5、6、7、8以外の13項目において、「選択肢5、4」が全て80%以上であった。質問6については、18.4%と非常に低い数値であるが、前年度同期と比較すると+8.0と大きく増加していることがわかる。「I 学生の自己評価」の8項目の中で、最も「選択肢5、4」が大きい質問1が、前年度同期に引き続きマイナスに伸びている。「II 学習環境の評価」の9項目は「選択肢5、4」が87～95%であり、学生からの評価は総じて高いといえる。

図6から、プラスの項目は13項目のうち、質問6が+8.0と最もプラスのポイントが大きい。前年度も+の増加があり、今回の増加も含めて明らかな改善傾向があるといえる。マイナスの項目は4項目あり、減少率も微々たるものであった。



学科名：保育科	28 科目 88 クラス	回答数：2,167
---------	--------------	-----------

▼ 保育科

記述統計量<sup>a</sup>

	度数	各評価の割合					平均値	標準偏差	
		5	4	3	2	1			
I 学習態度の自己評価	1. 授業の概要・目的、成績評価方法等の正しい理解	2165	74.1%	18.4%	7.0%	0.3%	0.1%	4.66	.628
	2. 授業を乱す行為をしない	2167	72.8%	19.1%	6.9%	0.8%	0.4%	4.63	.680
	3. 発展的な学習や新しい知識への興味	2166	71.1%	20.4%	7.8%	0.5%	0.3%	4.61	.677
	4. 積極的な参加	2167	69.2%	20.0%	9.6%	1.1%	0.0%	4.57	.714
	5. 地域及び国際社会の事情に、より関心を持つ	2161	64.1%	23.7%	10.1%	1.1%	0.9%	4.49	.792
	6. 予習及び復習の合計時間	2162	12.4%	6.9%	11.7%	29.6%	39.3%	2.24	1.361
	7. 遅刻はない	2156	72.3%	15.4%	8.5%	2.6%	1.1%	4.55	.843
	8. 授業における出席状況	2162	45.8%	32.2%	15.4%	5.1%	1.3%	4.16	.956
II 学習環境の評価	9. 授業中の質問する機会や工夫	2166	72.3%	18.0%	8.2%	1.2%	0.3%	4.61	.718
	10. 適切な授業の開始・終了時間	2164	80.0%	12.9%	6.1%	0.9%	0.1%	4.72	.622
	11. メリハリのある授業の進め方	2166	78.0%	13.3%	7.4%	1.0%	0.2%	4.68	.670
	12. 理解や興味を引き出す工夫	2166	74.7%	15.3%	8.1%	1.6%	0.3%	4.62	.730
	13. 教員としての相応しい発言や態度	2166	79.3%	12.6%	6.9%	1.0%	0.3%	4.70	.666
	14. 学習環境、受講生のマナーの維持	2165	77.0%	14.7%	7.3%	0.8%	0.2%	4.67	.662
	15. 教科書や黒板、パソコン等の有効利用	2166	77.7%	13.7%	7.2%	1.2%	0.3%	4.67	.687
	16. 適切な授業の進度	2166	77.7%	14.2%	6.7%	1.2%	0.3%	4.68	.675
	17. 学んだという達成感	2166	76.1%	15.2%	7.0%	1.2%	0.5%	4.65	.705

質問 6 の回答欄 (⑤3 時間以上、④3 時間程度、③2 時間程度、②1 時間程度、①0 時間)

質問 8 の回答欄 (⑤皆出席、④90%程度、③80%程度、②70%程度、①60%以下)

保育科の授業は、質問 6 以外の平均値が全て 4.1 以上であり、総じて評価は高いといえる。しかし質問 6 において 0 時間と回答した割合は 39.3% と高く、例年の課題である予習・復習時間の少なさについて改善はみられない。質問 8 は平均値が 4.16 であるが、その他の項目はどれも 4.5 以上、「II 学習環境の評価」では 9 項目すべてが 4.6 以上であり、学生からの評価は高い水準にあるといえる。

▼保育科（グラフ）

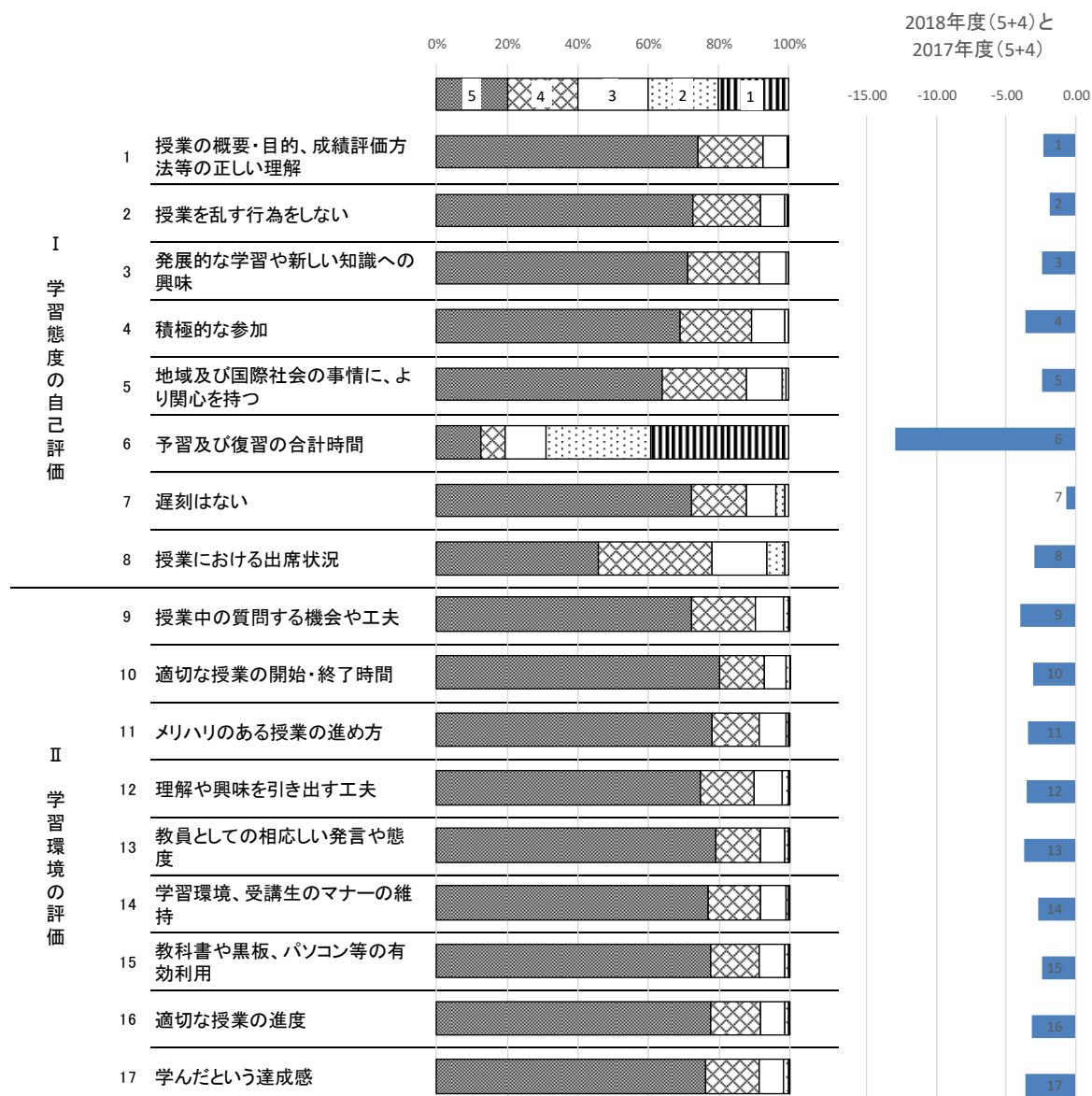


図7 各評価の割合（保育科）

図8 選択肢5及び4の割合の前年度同期との差分（保育科）

図7から、質問6以外の16項目において「選択肢5、4」が80%前後であり、「II 学習環境の評価」の9項目を含めた14項目では90%以上と割合は高かった。質問17「学んだという達成感」において、選択肢5を選んだ割合が77%以上と非常に高い。演習だけではなく、講義形式の授業においても同様に満足度が高いことを考えると、資格や技術の取得に関する授業で学生が積極的に関わり、さらにその授業に対する達成感を強く感じている、といえる。保育科は、卒業後の進路に直結した授業が多いため、このような傾向があると思われる。

図8から、前年度同期と比較してプラスの項目がなく、すべてマイナスに伸びているのがわかる。

今年度の前期においても、同様の傾向（前年度比マイナス）がみられており、次年度への早急な対応が望まれる。特に質問 6 の-12.9%で、最もマイナスの伸び率が大きい。他の質問では-3%程度のマイナスが多くみられる。概して、評価は依然と高いが今後の改善に向けて、参考にしてほしい。

今回の授業評価の分析より、次の 2 点が挙げられる。

### 1. 学生の「やる気」を促す授業の追求

近年、授業における学生の受け身の姿勢が強い傾向がある。授業時間以外での学習時間や、授業への出席率及び集中力は、学生の「やる気」と強く結びついていることは、自明の理である。アクティブラーニングといった、学生が能動的に学べる授業形態が話題となっているのは、このような学生の変化もあるためだと思う。リクルートマーケティングパートナーズの調べでは高校におけるアクティブラーニングの実施状況が 2014 年の 47%から 2016 年には 93%まで増加している。2019 年の現在は、さらに増加していることが予想される。高校までの学習と大学とは違う、ということも言われているが、今の学生がこのような環境で育ってきたということは前提条件として大学側も把握しておくべきである。まだまだ、個々の教員の教授法としてアクティブラーニングが実施されているが、FD を中心として学内全体で考える課題ではないかと思う。

### 2. 評価基準を明確化していく

評価基準を明確にすることには、様々なメリットがある。教員と学生の間で成績評価において共通の認識があることで、学生が自身のレベルを客観的に知ることができる。また、学生の「やる気」という面でも、授業における到達目標に加えて、個々の学生のレベルに合わせたゴールを明確化することができるため、授業へ取り組む姿勢も変わってくると考えられる。次年度から本学においてもルーブリックを導入し、さらにアンケートにもルーブリックを基にした質問項目を加えることになっている。評価基準を透明化し、学生に周知するとともに、教員と学生双方が大いに活用して欲しい。

学生の皆さんには、このアンケート結果を自身の勉強スタイルと比較して、今後の大学生活の見直す材料としてぜひ活用してください。また、教員からの学生に対するフィードバック（コメント）もぜひ確認してください。

教員の皆さんは、この結果を毎年度、毎学期の授業の振り返りの参考資料としていただければと思います。

## 2. 自由記述による評価

学生の自由記述について、テキストマイニングにより単語の出現頻度、共起キーワードを示すことで、学生の授業に対する考えを視覚化した。今回は「授業評価アンケート」に対する記述のため、「授業」「先生」という単語は当然頻出するものとして、その他の単語について着目する。

単語の出現頻度：文章中に出現する単語の頻出度を表にしたもの。「スコア」の大きさは、文書の中でその単語がどれだけ特徴的であるかを表しています。通常はその単語の出現回数が多いほどスコアが高くなるが、「言う」や「思う」など、どのような種類の文書にも現れやすいような単語についてはスコアが低めになる。

共起キーワード：文章中に出現する単語の、出現パターンが似たものを線で結んだ図。出現数が多い語ほど大きく、また共起<sup>1</sup>の程度が強い語ほど太い線で描画されます。

### 【総合教育系】

#### < 単語の出現頻度 >

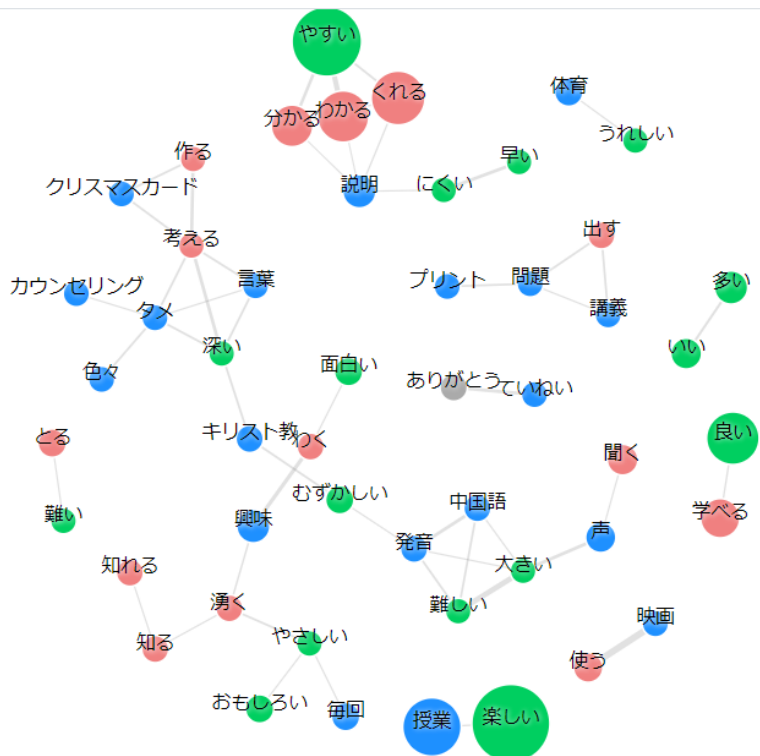
■ 名詞	スコア	出現頻度	■ 動詞	スコア	出現頻度	■ 形容詞	スコア	出現頻度
授業	13.93	36	くれる	0.77	25	楽しい	7.51	45
先生	1.87	19	わかる	105.45	23	やすい	8.73	38
興味	1.16	10	思う	0.23	20	良い	0.95	24
説明	1.32	10	できる	0.27	17	たのしい	1.90	9
声	21.00	7	分かる	1.15	15	多い	0.19	8
ストレッチ	4.35	7	学べる	10.65	13	いい	0.02	6
スポーツ	0.67	6	学ぶ	2.04	10	よい	0.10	6
考え方	1.08	5	教える	0.26	7	むずかしい	4.89	4
毎回	0.65	5	聞く	0.09	6	おもしろい	0.43	4
知識	0.53	5	使う	0.05	5	面白い	0.11	4
体育	3.19	5	とる	0.07	4	深い	0.06	2
キリスト教	2.95	4	話す	0.13	4	やさしい	0.26	2
英語	0.16	4	知る	0.03	3	うれしい	0.10	2
発音	0.96	4	知れる	0.29	3	難い	0.48	2
中国語	2.34	4	出す	0.03	3	難しい	0.04	2

右端の形容詞群において、「楽しい／たのしい」「～やすい」「良い／よい／いい」という単語が頻出していることがわかる。真ん中の動詞群では「わかる／分かる」「思う」「できる」

「学べる／学ぶ」が頻出しており、全体的に達成感が感じられる単語が多い。動詞で「くれる」の単語が多く、授業を受け身の姿勢で受講している学生がいる。名詞群では「授業」「先生」「興味」「説明」の単語が多く、これらがさきほどの頻出している動詞や形容詞とどのような関連があるかで、学生の授業に対する反応や評価を端的に知ることができる。

<sup>1</sup>共起とは、一文（改行や「。」などで区切られた各文）の中に、単語のセットが同時に出現するという意味です。共起回数は、一緒に出現した回数を指します。

<共起キーワード>



前述した頻出単語の共起回数によって円の大きさや、単語をつなぐ線の太さが異なっている。共起キーワードをみると、授業と最も共起回数の多い単語は、「楽しい」であった。一方、「～やすい」「分かる」「くれる」に最も関連のある名詞は「説明」で、学生の理解度を意識した授業が行われているのがわかる。

【英語科】

<単語の出現頻度>

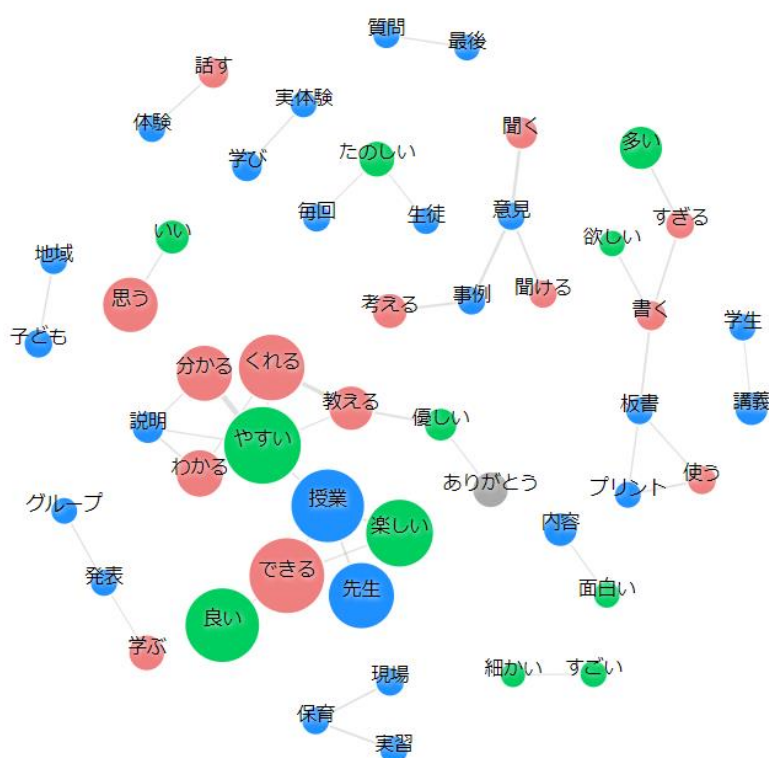
名詞	スコア	出現頻度	動詞	スコア	出現頻度	形容詞	スコア	出現頻度
授業	17.77	41	くれる	1.03	29	やすい	3.59	24
先生	2.07	20	わかる	76.46	18	楽しい	1.69	21
英語	3.04	18	できる	0.21	15	良い	0.54	18
生徒	2.90	9	分かる	0.62	11	よい	0.32	11
毎回	1.25	7	思う	0.07	11	多い	0.19	8
単語	1.53	6	教える	0.42	9	たのしい	1.17	7
文法	5.36	6	学ぶ	1.02	7	すごい	0.11	6
理解	0.45	6	学べる	2.62	6	優しい	0.30	5
欠席	9.51	6	聞く	0.06	5	いい	0.02	5
質問	0.32	5	考える	0.04	4	面白い	0.11	4
説明	0.34	5	つく	0.08	4	難しい	0.08	3
内容	0.26	5	出ず	0.03	3	おもしろい	0.24	3
遅刻	0.99	5	感じる	0.05	3	甘い	0.16	3
課題	0.32	4	頑張る	0.03	3	ほしい	0.02	2
環境	0.35	4	すぎる	0.01	3	早い	0.01	2

右側の形容詞群では「～やすい」「楽しい／たのしい」「良い／よい／いい」が頻出している。中央の動詞群では「わかる／分かる」「できる」「思う」という「達成感」が感じられる単語が頻出しているが、それ以上に「～くれる」という受け身の姿勢と感じられる単語が多いことが気になる。左端の名詞群では「授業」が圧倒的に多く、次に「先生」「英語」が多く出現している。



頻出している。「教える」「学べる／学ぶ」「考える」もそれに次いで頻出しており「達成感」を強く感じさせる単語とともに、自発的な態度を示す単語もみられる。左端の名詞群「授業」「先生」が圧倒的に多いが、それ以外にも「内容」「講義」「説明」「勉強」「学び」等、広く授業に関わる単語がみられる。また「子ども」「現場」「実習」といった単語が出てくるのは保育科の特徴と考えられる。

<共起キーワード>



共起キーワードの関係をみると、「授業」「先生」「楽しい」「できる」「～やすい」「～くれる」「分かる」「教える」等の単語が、共起が大きいことがわかる。また「実体験－学び」や、「地域－子ども」「保育－現場」「保育－実習」といった、保育科の特徴が表れた共起がみられる。また、板書に関しては、「多い－すぎる－書く」の改善要望と思われる共起キーワードもみられる。